

建設事業の進捗状況と効果

1. 豊川水系フルプラン関係施設の概要 1
2. 建設事業の進捗状況
 - ・ 設楽ダム建設事業 3
 - ・ 豊川用水二期事業 4

1. 豊川水系フルプラン関係施設の概要

● 現行フルプランに掲げられている事業(2事業)



フルプランに掲げられた完成事業
豊川総合用水事業、豊川用水施設緊急改築事業



1. 豊川水系フルプラン関係施設の概要

● フルプランに掲げられた完成事業

とよがわそうごうようすい 豊川総合用水事業



【目的】

- ・ 愛知県東三河地域の農地に対する農業用水の確保及び補給
- ・ 愛知県の水道用水の確保

【事業主体】

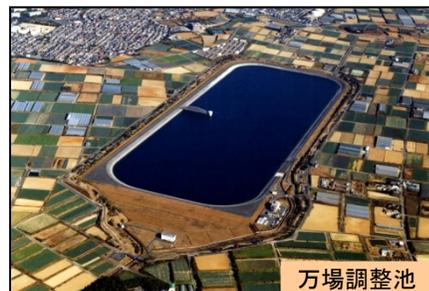
- ・ (独)水資源機構

【河川名】

- ・ 豊川水系豊川、宇連川、大島川

【工期】

- ・ 昭和52年度～平成13年度



とよがわようすいしせつぎんきゅうかいちく 豊川用水施設緊急改築事業



改築状況(大野頭首工 平成5年度の状況)

【目的】

- ・ 豊川用水施設のうち老朽化等により低下した施設の機能の回復

【事業主体】

- ・ (独)水資源機構

【河川名】

- ・ 豊川水系豊川、宇連川、大入川、大千瀬川

【工期】

- ・ 平成元年度～平成10年度

2. 建設事業の進捗状況（設楽ダム建設事業）（検証対象）

きたしたらくんしたらちょう とよがわ とよがわ
○場所 愛知県北設楽郡設楽町（豊川水系豊川）

○目的

- ・洪水調節
- ・流水の正常な機能の維持
- ・かんがい

（愛知県東三河地域の農地約17,200haに対するかんがい用水として、新たに毎秒0.339m³（年平均）の取水を可能とする）

- ・水道用水

（愛知県東三河地域の水道用水として、新たに毎秒0.179m³の取水を可能とする）

○諸元

- ・重力式コンクリートダム、高さ129m
- ・総貯水容量 9,800万m³
- ・利水容量 7,300万m³

○概算事業費 約2,070億円

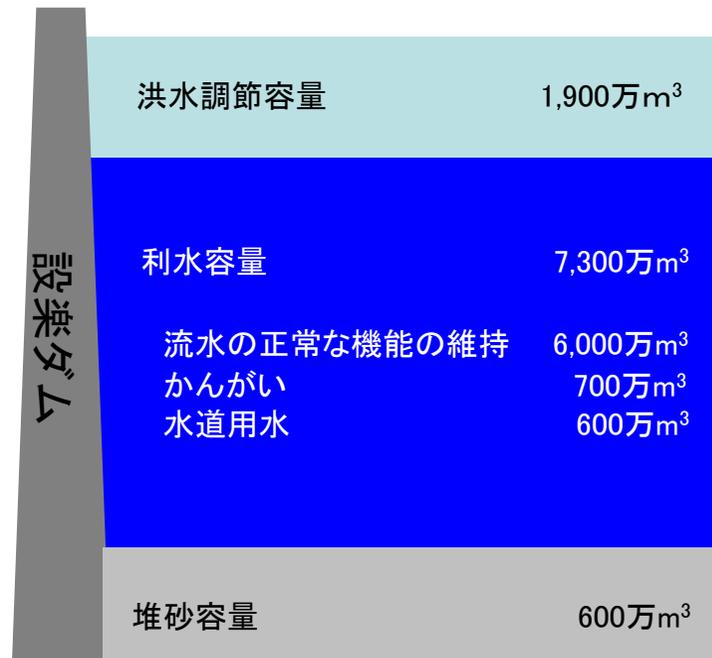
○工期 昭和53年度～平成32年度（予定）

○経緯

- ・昭和53年4月 実施計画調査着手
- ・平成15年4月 建設段階へ移行
- ・平成19年6月 設楽ダム建設事業環境影響評価書を公告縦覧
- ・平成20年10月 設楽ダムの建設に関する基本計画を告示
- ・平成21年1月 水源地域対策特別措置法に基づくダムに指定
- ・平成21年2月 損失補償基準の妥結調印、ダム建設同意に関する調印
- ・平成21年3月 水源地域対策特別措置法の水源地域指定、整備計画の決定
- ・平成21年12月 検証対象ダムに区分

○事業の進捗状況（平成22年度までの進捗率（事業費ベース）） 約13%

○事業主体 国土交通省



2. 建設事業の進捗状況（豊川用水二期事業）

○場所

豊川用水幹線水路（愛知県）、支線水路（愛知県、静岡県）
初立池（愛知県田原市）

○目的

愛知県東三河地域及び静岡県湖西地域の農業用水等の供給に係る、老朽化した水路施設の改築、幹線水路の複線化等による、施設の安全性回復、水供給の安定化、適切な維持管理の確保、水利用の効率化を図る

○諸元

・水路改築

幹線水路改築 約34.2km
併設水路新設 約54.0km
支線水路改築 約55.0km

・大規模地震対策

幹線水路補強 約16.4km
併設水路新設 約21.3km
初立池（堤体補強） 1式
管理設備等 1式

・石綿管除去対策

支線水路 約414km

○事業費 約1,825億円

○工期 平成11年度～平成27年度（予定）

○経緯

・平成11年度 事業実施計画の認可
事業着手

・平成19年度 事業実施計画変更の認可
（大規模地震対策、石綿管除去対策の追加）

○事業の進捗状況（平成22年度までの進捗率（事業費ベース））

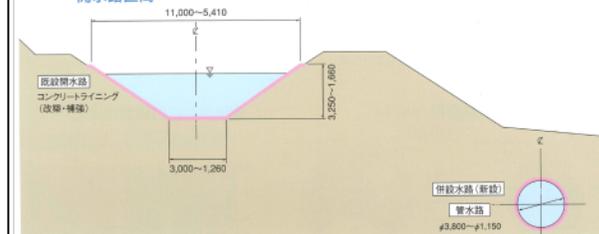
・水路改築 : 約95%
・大規模地震対策 : 約31%
・石綿管除去対策 : 約45%

■位置図



水路改築 標準断面図

大野系幹線水路 標準断面図
東部幹線水路・西部幹線水路
開水路区間



・《参考》豊川用水の主な水路施設の延長

大野潭水路		6.3km
大野系水路		111.7km
	東部幹線水路	75.7km
	西部幹線水路	36.0km
牟呂松原系水路		24.2km
	牟呂松原幹線水路	5.3km
	牟呂幹線水路	17.9km
	松原幹線水路	1.0km

2. 建設事業の進捗状況（豊川用水二期事業）

● 水路改築、大規模地震対策

〔水路改築〕

- ・老朽化した既設水路の改築及び併設水路の新設により複線化を行う

〔大規模地震対策〕

- ・幹線水路、初立池及び管理設備等の耐震対策工事を行うとともに併設水路の新設により複線化を行う

【効果】

- ・複線化により不断水での維持・保守点検が可能となるとともに、事故時等の危険分散により、水供給の安定化が図られる
- ・幹線水路等の耐震性向上により地震発生時に被害を未然に防止する
- ・併設水路を利用することにより、洪水導入の迅速化、効率化が図られる
（万場調整池への洪水導入時間が4時間短縮（6.5h→2.5h））
- ・牟呂松原幹線水路における用排水分離による水質改善が図られる

水路改築



大規模地震対策



石綿管除去対策



● 石綿管除去対策

- ・支線水路に広範囲に使用されている石綿管を撤去し塩ビ管等への布設替を行う

【効果】

- ・漏水の改善、安定的な水供給、施設の長寿命化及び維持補修費の軽減が図られる